

第 8 8 回 病 診 連 携 委 員 会 要 録

日 時 平成30年8月27日（月） 午後7時45分

場 所 浪速区医師会 会議室

出 席 者 裏面

製品説明 大正富山医薬品㈱

議 題

1. 第87回病診連携委員会報告について

前回委員会での議事内容の報告と確認を行った。

2. 浪速消防署からの報告について

平成29年からブルーカードのよる搬送では、実際の口頭でブルーカードの確認ができたのは3名。冷蔵庫の中の救急カプセルを採用している地域もある。実際はもっと多くの方が搬送されていたと思われるが、最近は確認できないケースが増えているので消防署の日報等に記入を徹底してもらうようお願いした。また、登録中であるがと言われる患者さんもいたりなど、登録していること自体を忘れていることも考えられる。

これまでは消防部本部より出席されていたが、本年は浪速消防署から参加していただいた。今回出席いただいた牧野さん自身は平成30年4月から浪速消防署に異動となり、それまでは東住吉で勤務されていたとのこと。ブルーカードに関しては認知していたが、活用している方の確認が少なかったのが現状とのこと。また、17病院が参加していることも今回はじめて認識し、それまでは浪速区が中心となって愛染橋病院あたりが病院として参加しているものかという認識だったとのことである。

ORIONは数年前より、かなり進化しており、ここ2年で救急搬送所要時間は短縮している。救急告示病院の受入れ情報更新も毎日2回を徹底するようになった。

別紙報告資料において、平成29年1月から12月までのブルーカード使用例一覧を提示。

参考記録として大阪市全体の救急搬送所要時間（現着から病院まで）が27.5分、受け入れまでの搬送連絡回数平均1.51回である。

3. 連携病院の救急搬送状況について（アンケート）（資料3）

各病院の救急搬送状況（平成30年4月から7月）、①救急搬送の受入数、②受入不可数、③ブルーカード患者の受け入れ困難例、④各病院の救急医療、に対する方針についてアンケートを実施した。

受け入れ困難例としては、救急隊からの情報で脳梗塞、心不全が疑われ、高次病院、専門病院の方が良いのではないかと判断されたケースや、明らかな内科的疾患が疑われた場合、内科医不在のため他院への搬送を依頼したケースがあったとのこと。

また、各病院、科目での対応が困難であるときは、その時のケースバイケースで他病院への搬送が行われているとのことであった。日勤帯と当直帯での対応が大きく異なる病院も当直医の専門分野で異なる事が多いにある様子である。

救急隊の印象として、断られるケースとして多いのは、満床であるか、救急対応中との理由が多いとのこと。

また、大抵3件当たると1件は受け入れ可能ということが多く、その意味では今回のアンケート結果と一致している。アルコール飲酒で断る事は少なくなっている。

4. ブルーカード登録数について

本日現在の登録件数			浪速区601件	他地区58件
本日現在の使用状況数（延べ）			浪速区636件	他地区42件
3月26日から本日までのカード動向			合計149	
新規 62件	更新 52件	入院 10件	他入院 1件	帰宅 3件
中止 8件	死亡 8件	退院 2件	連携入院 1件	受入不可 1件
通院無 0件	かかりつけ医変更 2件		登録病院変更 7件	

5. その他 なし。